

# 一般他者の選好の推測が政治的会話への抵抗感に与える影響

2021年度日本社会心理学会若手研究者奨励賞受賞研究

岡田 葦生 (関西学院大学・日本学術振興会)



## 1. 研究の背景

### 1-1 本研究の問題意識と目的

- **問題意識**
  - ・政治的会話が起るかを規定する要因として集団内の意見分布がある
  - ・この立場は、沈黙の螺旋理論における意見風土の発想に基づいている
  - ・元来、意見風土の概念は小規模な集団内での意見分布だけでなく、社会全体の意見分布までも含むもの
  - ・しかし、政治的会話に意見風土を応用した多くの研究では、小規模・具体的な集団内での意見分布の予測の影響が主たる分析対象
  - 一般他者間での意見分布の影響は十分検証されていない
- **目的**
  - 目的1:** 一般他者の争点態度の分布の予測が政治的会話への抵抗感に与える影響の検証
  - 目的2:** 一般他者の態度予測が政治的会話に与える影響の調整要因の探索

### 1-2 先行研究

- **政治的会話の重要性と生起の困難さ**
  - ・政治的会話は最もミクロかつ初步的な市民性涵養の行為 (横山, 2023)
  - ... 政治知識(Eveland,2004), 政治参加(横山・稲葉,2016), 寛容性(Ikeda et al.,2009)etc.
  - ・一方で、対人摩擦のリスクを孕むため生起の困難さも指摘されている(Klar & Krupnikov,2016)
- **いつ政治的会話は避けられるのか?**
  - ・最も主要な説明変数の一つが主観的な意見分布
  - 自身が少数派であることを察知すると政治的会話は生起しにくい
  - ・集団討議における少数派の知覚: Settle & Carlson(2019); Wojcieszak & Price(2016)
  - ・理論的基盤としての**意見風土**
  - 孤立回避のため人間はマクロレベルでの意見分布 (=意見風土) を察知し、多数派であれば態度表明をし少数派であれば沈黙する (Noelle-Neuman, 1993)

### 1-3 残された課題

- **局所的な意見分布と一般的な意見分布**
  - ・しかし、後続の実証研究で実際に検証されているのは「**特定の集団内で少数派になること**」の効果 (対面での小集団: Wojcieszak & Price 2016, SNS上での集団: Kligler-Vilenchik, 2022, 場面想定: Settle & Carlson 2019)
  - ・意見風土の概念で理論的に想定されているのは、「**目の前にいるわけではない他者までも含めた上での意見分布**」(Noelle-Neuman, 1977) (※局所的分布も含まれる)
  - 一般他者の意見分布の効果に明確にスポットライトが当てられているわけではない
  - ⇒ 本研究では、**一般他者の意見分布の予測の影響を直接検討**
- **一般他者の意見分布の重要性**
  - ...なぜ局所的意見分布とは別に一般的意見分布の効果进行分析する必要があるのか
  - ・心理過程の差異: 「**具体的個人との摩擦を回避したい**」 or 「**少数派になりたくない**」
  - ・**帰結の差異:**
    - 具体的個人との摩擦回避→コミュニティの均質性や局所的な多数派性さえ確保されていれば、少数派による政治的会話は生起しうる
    - マクロレベルでの少数派になることの回避→目の前の人と選好が一致している場合であっても政治的会話は生起しにくい

## 2. リサーチデザイン

### 2-1 仮説

- H1: 賛否が伯仲している話題は、賛成が多数であると判断された話題よりも避けられやすい
- H2: 賛成が少数であると判断された話題は、賛否が伯仲している話題よりも避けられやすい

### ● 調整要因の検討

- ・全ての人々が一般他者の意見分布を用いる訳ではない (例: 強い選好をもつ少数派 (Hardcore) の存在, cf. Noelle-Neuman, 1993)
- 争点態度を持たない人々が積極的に用いる可能性
- ⇒ H3: 一般他者の意見分布の効果は、争点態度を持たない人々間で特に大きい

### 2-2 実験デザイン

- ・場面想定法: 「ご友人と二人でニュースを見ている場面を想像してください。その時、放送されたニュースを見てご友人が次のような発言をしました。」
- 意見分布が異なると考えられる3つの争点のうち1つにランダムに言及 (争点は2022年実施の東大朝日調査に基づいて選定)
  - 賛成多数: 日米安保条約はこれからも継続してほしいよね。
  - 賛否伯仲: 他の国がミサイルを撃ってきた時に防衛しきれないって怖いよね。日本も敵のミサイル基地を攻撃できるようにしてよかったよ。
  - 賛成少数: 核兵器を「持たず」「つくらず」「持ち込ませず」の非核三原則は見直すべきだよ。
- ・シナリオ提示後、会話の継続意思と主観的な賛否の割合を回答

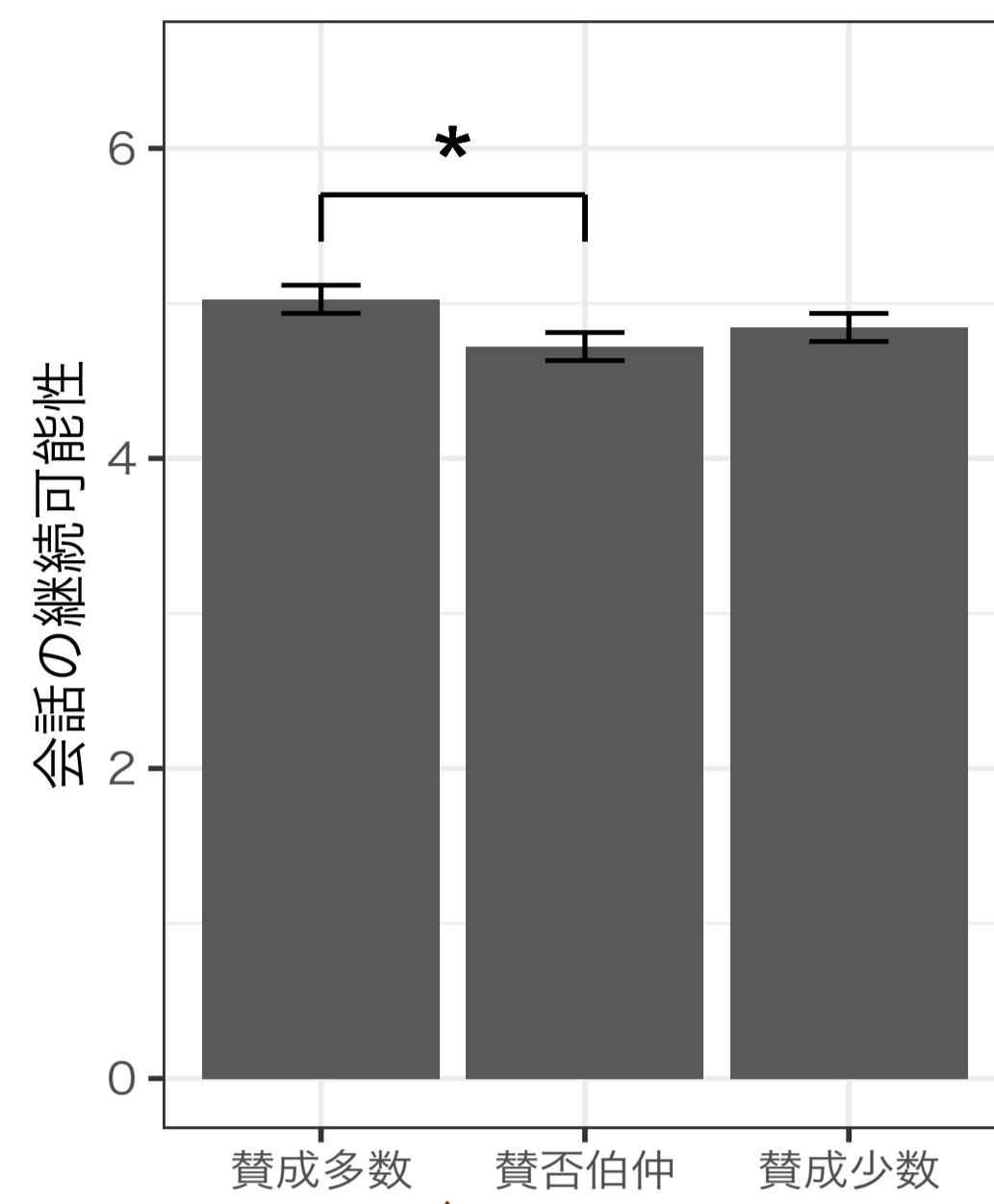
### 2-2 データ

- ・クラウドソーシング (Lancers) のモニター登録者 (N=1215)
- ・調査期間: 2023/8/28~29

## 4. 実証分析

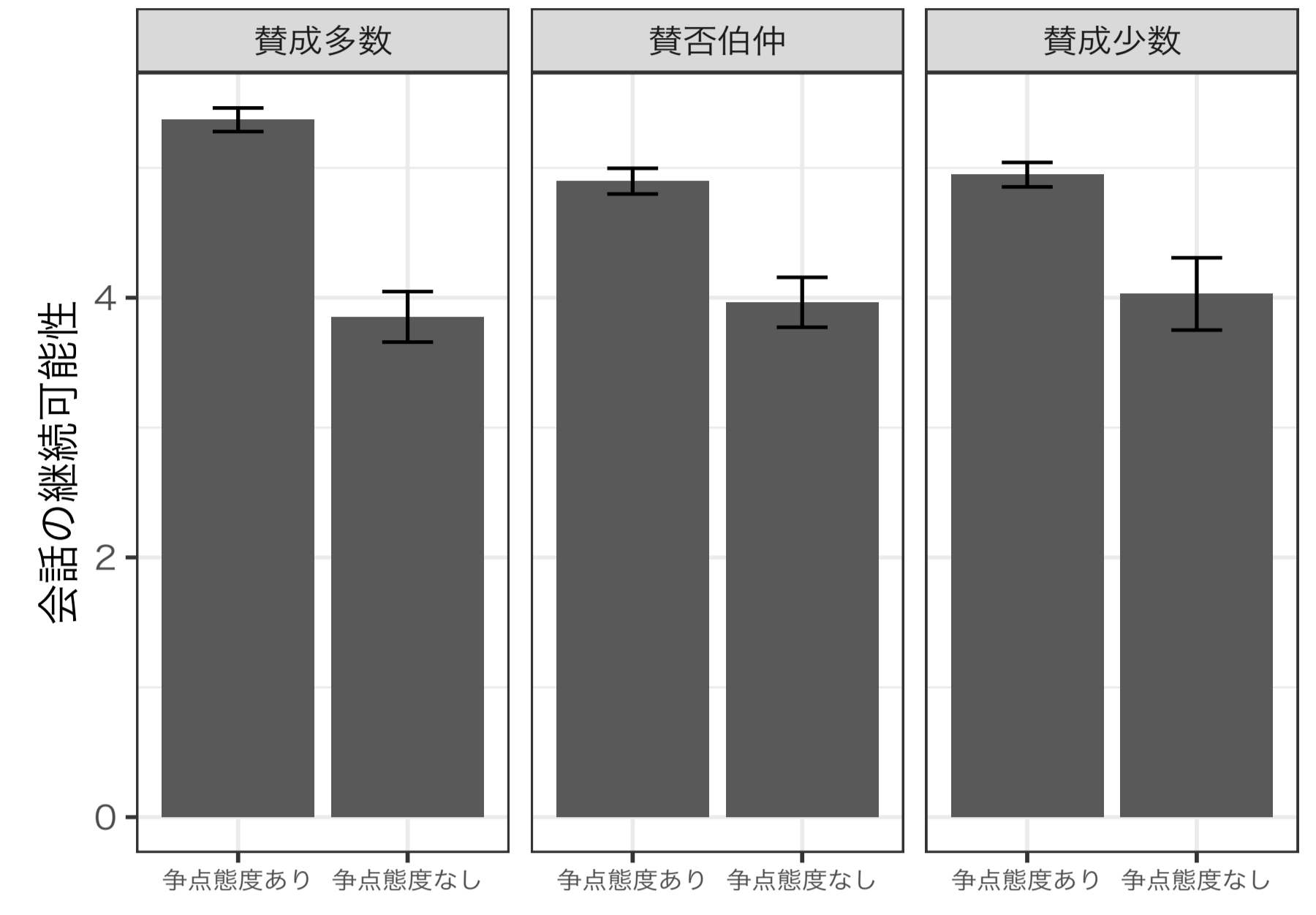
### ● 一般的な意見分布の予測と会話の継続可能性

図1 予測された意見分布の主効果



賛成多数 (日米安保の維持に賛成) と賛否伯仲 (敵基地攻撃能力に保有に賛成) の間に有意な差が見られたものの、効果量は小 ( $F(2, 1209)=2.86, p=0.04, \text{偏}\eta^2=0.01$ )

図2 意見分布と争点態度の有無の交互作用



争点態度の有無との交互作用は有意とはならず、態度の有無の主効果のみが有意 ( $F(1,1207)=67.70, p<0.01, \text{偏}\eta^2=0.07$ )

⇒ **仮説はどちらも支持されず**

(他にも、DV:会話の継続可能性, IV:一般他者の意見分布とした重回帰分析も行ったが、意見分布の予測の係数は非有意)

### ● 操作チェック

図3A 予想された賛否の割合

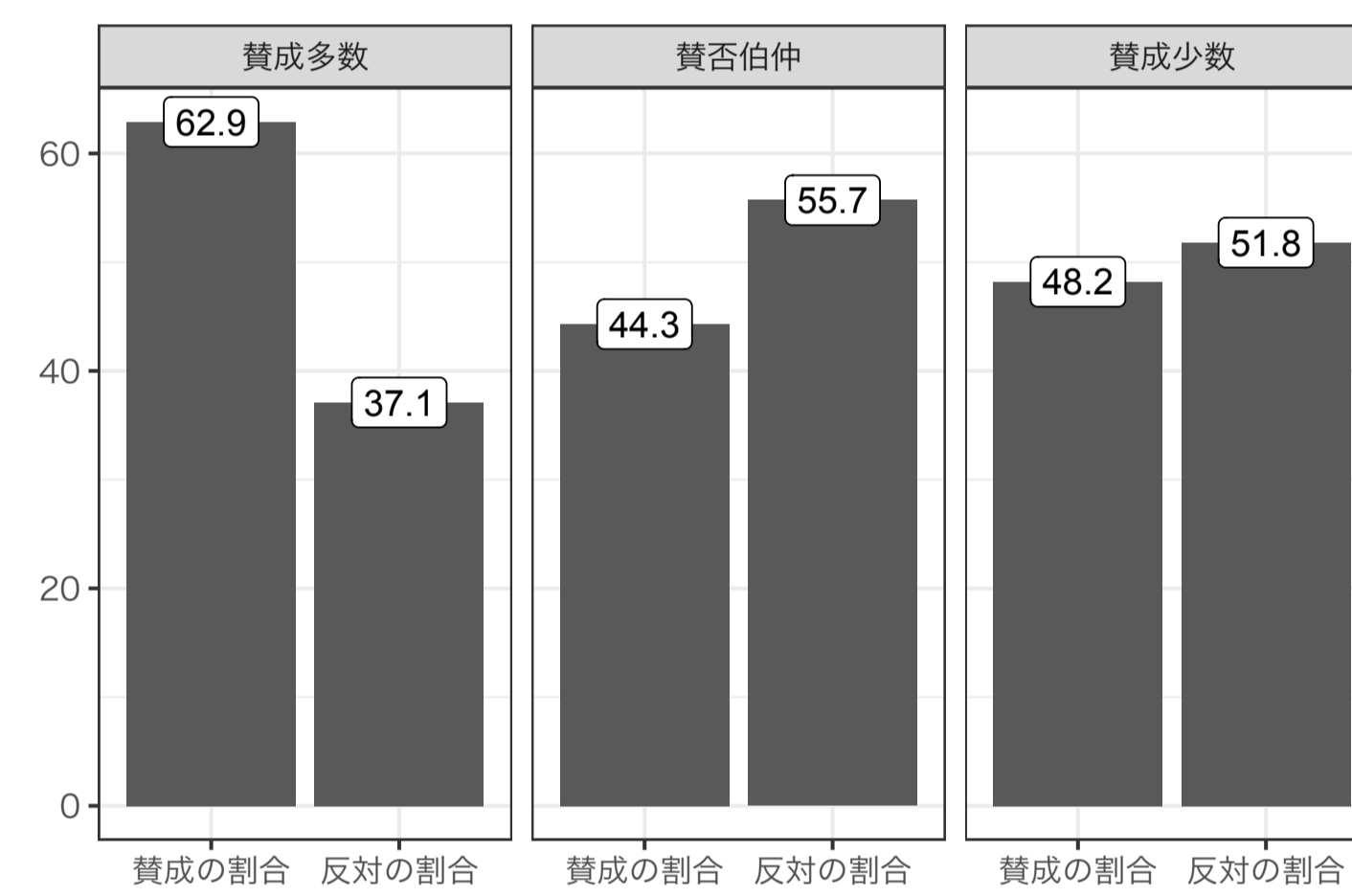
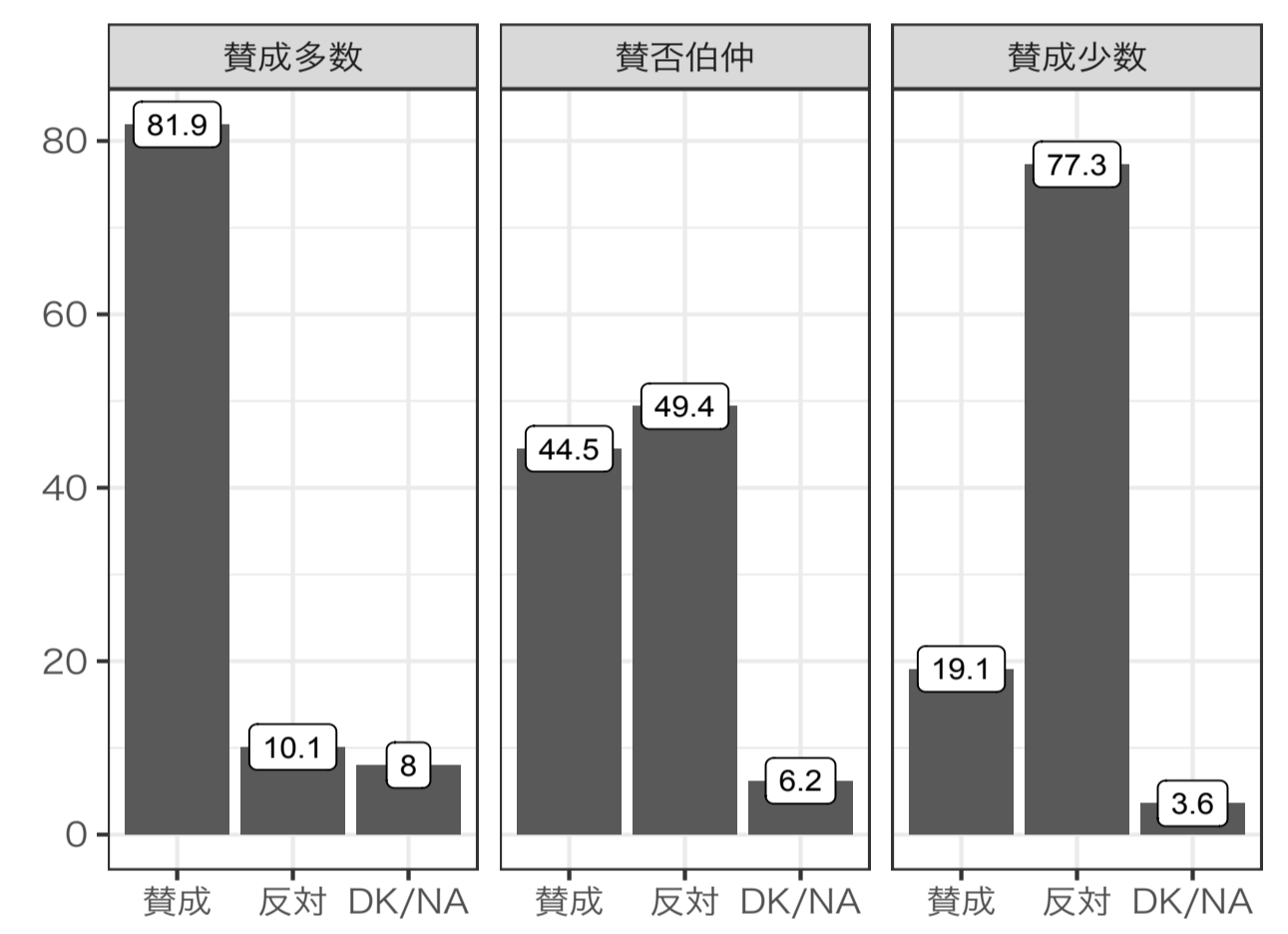


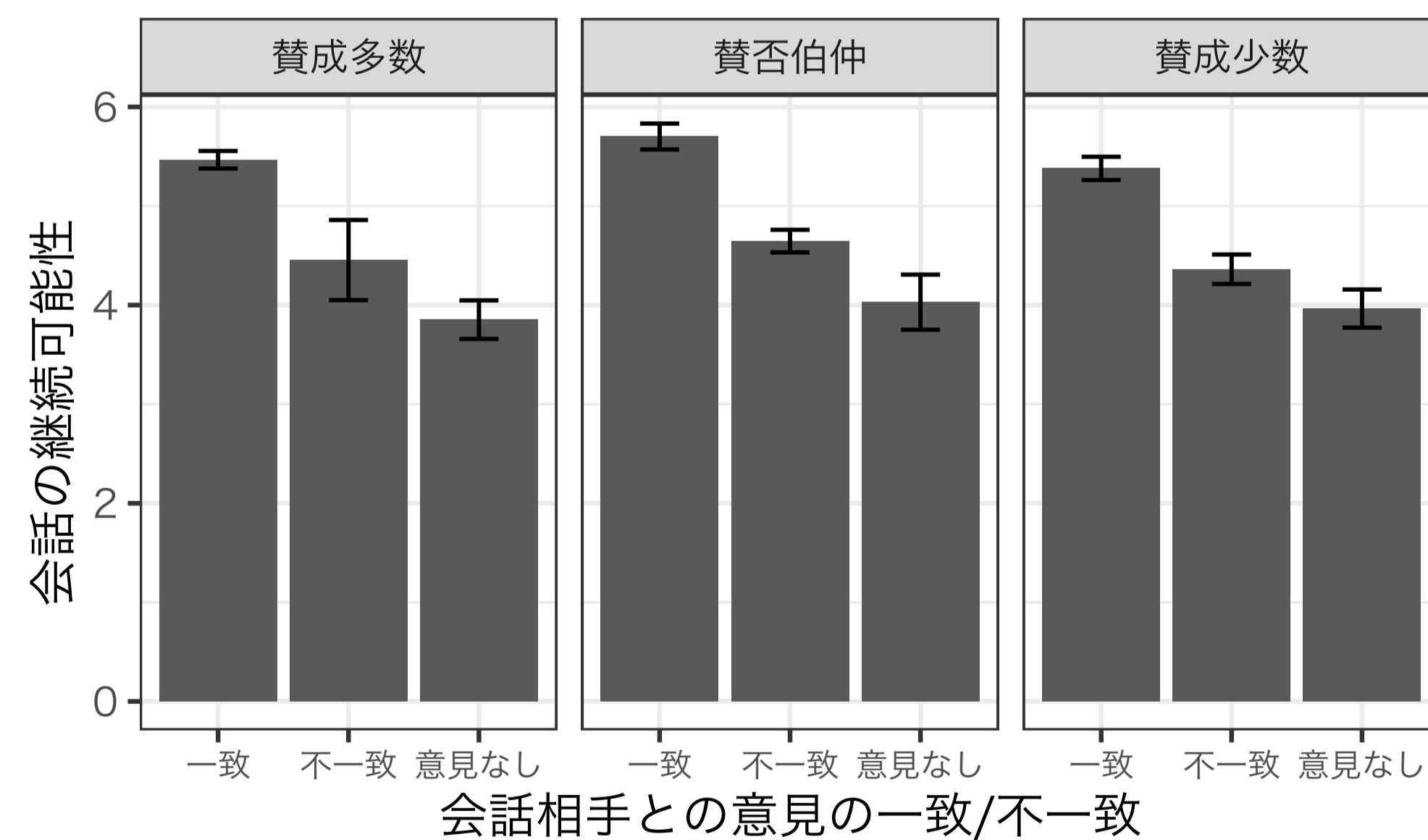
図3B 実際の賛否の割合



意見分布の推測は、賛成多数・伯仲については概ね正確な推論。賛成少数については大きく異なった分布が想像されている

意見なしの回答者は5:5に近い推測をしており不正確だったが、賛成少数の意見分布の予測は意見ありの回答者よりも正確 (賛否=44.9:55.1)

### ● 会話相手との意見の一致/不一致の効果



会話相手との意見の一致/不一致は有意&効果量も大 ( $F(2, 1202)=68.75, p<0.01, \text{偏}\eta^2=0.13$ )

## 5. 結論と今後の方針

### 5-1 結論

- ・政治的会話の継続/断絶においては、一般的な意見分布はそれほど大きな影響を持たず、局所的な意見分布が重要
- 少数派であることが「スティグマ」として機能する可能性は低い?

### ● What's new?

- ・先行研究は、局所的な意見分布と一般的な意見分布を特に区別してこなかったが、それは、この2つが同じものとしてみなされてきたから
- 一般的な意見分布が効果を持たず、意見の一致/不一致が大きな影響を有するという「当たり前」の結果は、むしろこれらを区別すべきであることを示している可能性 (実際、一般的な意見分布の影響を示唆する分析結果は存在する, cf. 秦・横山, 2016)

### 5-2 今後の方針

- ・意見風土の認知が機能する閾値の特定: 対一の場面が摩擦回避の効果を高めた一因かもしれない
- ・沈黙の螺旋研究として: 意見風土の正確性は領域ごとに均質でないことが示唆 (+争点態度の有無によっても異なる)
- 安全保障領域以外にも含めた意見風土の不均質性の分析 & 他の従属変数に対する影響

追加資料はコチラ

